

えひめの歴史文化モノ語り

県歴博収蔵資料から ⑧

戦前の四国霊場を記録した史料に、東外海村（現愛南町）蓮乗寺の弘法教会本部に設立された四国霊場大観刊行会編さん・発行のものなり」とある。

「四国霊場大観」がある。本書の前書きによると、四国霊場八十八ヶ所の風趣を一目瞭然たらしめ、さながら四国霊場を巡拝した気分

情報（所在地、最寄り郵便局、宗派、正式名称、本尊と作者、縁起、交通）、境内の写真などが詳しく紹介されている。納経は各寺院の住職の真筆で、札所を撮影した写真は約250点、全約600ヶ所に及び、まさしく四国霊場の大図鑑の体裁となっている。

当館に程近い西予市宇和町明石にある第43番源光山明石寺（めいせきじ・天台宗）は通称「あけいしさん」と呼ばれ、本尊は千手観世音菩薩。本書によると、欽明天皇の勅願寺とされ、

昭和初期の実態を記録

四国霊場大観



昭和初期の四国霊場四国八十八ヶ所が一目瞭然となる「四国霊場大観」。写真は表紙（上）と「明石寺本堂」（下）。同館蔵



734（天平6）年に寿元という行者が熊野十二社権現を勧請し、822（弘仁13）年に弘法大師が再興したと伝えられ、その後、西園寺家や伊達家の祈願所となったことなどが紹介されている。写真からは昭和初期の本堂の姿が見て取れる。本堂は1890（明治23）年にころに建立され、入り母屋（いりもや）造、正面に唐破風（からはか）の向拝（こうはい）を付した重厚な建造物である。本堂前にのぼりが立ち、正面の扉は開放され、壁面には多くの奉納物が見える。境内の石垣は1930（昭和5）年に改修され、チャート系の大石を組み上げて築かれ、高度な石工技術がうかがえる。本堂、石垣など9件が国登録有形文化財となっている。本書は昭和初期の四国霊場の実態を示す記録として貴重であり、特別展「明石寺と四国遍路」（3月14日まで）で展示中。他にも、明石寺の絵画、彫刻、古文書などの寺宝を特別公開している。

（専門学芸員 今村賢司）

〈随時掲載します〉